

ディストピア パンドラの少女 (2016)

THE GIRL WITH ALL THE GIFTS

メディア 映画

ジャンル SF ホラー ドラマ

製作国 イギリス/アメリカ

色彩 Color

時間 111分

初公開日 2017/07/01

公開情報 クロックワークス

映倫 PG12

【キャッチコピー】

彼女は
人類の
希望か。
絶望か。

【解説】

英国の作家M・R・ケアリーのベストセラーSFゾンビ小説を実写映画化。パンデミックによって思考力を失い凶暴化した感染者“ハングリーズ”が跋扈する荒廃した近未来を舞台に、感染しながらも高い知性を保つ少女と、それぞれに事情や思惑を抱えた3人の大人たちが過酷な逃避行を繰り広げるさまを、互いに警戒を怠らない一方で、次第に奇妙な絆も芽生えていく複雑な心理状況を織り交ぜつつスリリングに描き出していく。出演は少女役に新人セニア・ナニユア、彼女が行動を共にする大人たちにジェマ・アータートン、パディ・コンシダイン、グレン・クローズ。監督は「SHERLOCK/シャーロック」や「ドクター・フー」など多くのヒット・ドラマの演出を手がけ、映画はこれが2作目のコーム・マッカーシー。

真菌の突然変異によって人類に感染爆発が起こり、思考能力をなくし、生きた肉のみを食す“ハングリーズ”が増殖蔓延した近未来。感染を免れた人々は、フェンスで囲われた基地内で兵士たちに守られ暮らしていた。ロンドン郊外にあるそんな基地のひとつで教師をしているヘレン・ジャスティノー。しかし、教える相手は“二番目の子供たち（セカンド・チルドレン）”と呼ばれる感染した子供たち。厳重な監視下に置かれた彼らは、感染しているにもかかわらず、思考能力を維持していた。その中の一人メラニーは、純真な心と高い知性を持ち、ヘレンが特に気に掛けている少女だった。一方、科学者のキャロラインは、メラニーを格好の研究対象とみて、その解剖に乗り出す。そんな時フェンスが突破され、基地内に大量のハングリーズが侵入、ヘレンはパークス軍曹に助けられ、メラニーとともに大混乱の基地を辛くも脱出、なおメラニーの解剖に執着するキャロラインを加えた一行は、ひとまず協力して、生き残りをかけた決死の逃避行へと繰り出すのだったが…。

【クレジット】

監督	コーム・マッカーシー	Colm McCarthy
製作	カミール・ガティン アンガス・ラモント	Camille Gatin Angus Lamont
製作総指揮	リジー・フランク ベン・ロバーツ リチャード・ホームズ クリストファー・モル ウィル・クラーク	Lizzie Francke Ben Roberts Richard Holmes Christopher Moll Will Clarke

	アンディ・メイソン マイク・ルナゴール	Andy Mayson Mike Runagall	
原作	M・R・ケアリー	M. R. Carey	『パンドラの少女』 (東京創元社刊)
脚本	マイク・ケアリー	Mike Carey	
撮影	サイモン・デニス	Simon Dennis	
プロダクションデザイン	クリスティアン・ミルステッド	Kristian Milsted	
衣装デザイン	ライザ・ブレイシー	Liza Bracey	
編集	マシュー・カニングズ	Matthew Cannings	
音楽	クリストバル・タピア・デ・ヴィーア	Cristobal Tapia de Veer	
出演	セニア・ナヌア	Sennia Nanua	メラニー
	ジェマ・アータートン	Gemma Arterton	ヘレン・ジャスティノー
	パディ・コンシダイン	Paddy Considine	エディ・パークス軍曹
	グレン・クローズ	Glenn Close	キャロライン・コールドウェル博士
	アナマリア・マリнка	Anamaria Marinca	ジーン・セルカーク博士
	フィサヨ・アキナデ	Fisayo Akinade	キーラン・ギャラガー一等兵
	ドミニク・ティッパー	Dominique Tipper	デヴァーニ